

令和4年度 群馬県立ゆうあいピック記念温水プール事業計画

I 基本方針

当館は障害者や高齢者のスポーツを通じた社会参加とリハビリテーションの拠点施設として、その理念に基づいた事業を実施する。

II 事業内容

障害者スポーツの振興では、障害者が日常的に水泳に親しむ機会の提供と、水泳の楽しさを感じられる環境づくりに努め、将来のスイマー育成を目指す。

また、「健康寿命延伸の拠点施設」として、障害者、高齢者が健康で自立した生活を送ることができるよう、「からだに健康！ここに元気！」に資する事業を実施し、地域で信頼される施設を目指す。

さらに、当館の設置理念に共鳴する県内民間企業と事業を協働することで当館独自の事業を推進し、施設のPRと利用者サービスの向上を図る。

新型コロナウイルス対策としては、群馬県「社会経済活動再開に向けたガイドライン（改訂版）」に沿って館内の感染拡大防止に努め、利用者が安心して利用できる環境を提供する。

III 本年度の重点的取組と数値目標

1 プール事業の充実

(1) 障害児（者）への水泳普及によるスポーツ振興

障害児（者）対象の水泳教室を引き続き開催し、水泳を始めるきっかけづくりと、継続した教室への参加により水泳競技への興味を高めることで、将来のアスリートの養成を目指す。

障害児水泳教室（水慣れ・水遊び） 障害児水泳教室（初心者）

(2) 健康づくり教室

プール利用者が、心身ともに健康で質の高い生活を送るサポートとなるよう、計画的に各種の健康づくり教室を開催し、健康寿命の延伸に寄与する。

ア 長期間の水中運動教室の新規開催

平成30年度から行っている県民健康科学大学との共同事業であるプール利用の効果検証結果を踏まえ、約半年間にわたりフレイルに対する知識や予防法を学ぶ「フレイル予防教室」、メタボリックシンドローム、ロコモティブシンドローム、サルコペニアの「三大シンドローム予防教室」及び水中専用のノルディックポールを使用したストレッチと歩行により、効果的なりハビリや運動を行う「水中ノルディックポール教室」を実施する。

イ 水中運動器具ハイドロトーンを利用した水中有酸素運動の促進

ハイドロトーン認定講習会の開催と、その効果的使用のための占用コースの設置や定期的な指導など、利用方法を工夫して足腰に負担の少ない水中有酸素運動を促進する。

(3) その他のプール事業

ア 万歩計を使用して、プール以外での活動量を把握し、水中運動教室参加者を対象としたプール内外の運動指導を行う。

イ 障害者と健常者の交流行事としてプール全面を使用した「水中球技大会」を行う。

ウ 誰でも自由に参加できる水中レクリエーションを行う「ひまわり教室」を開催する。

エ 水泳の個人レッスンやビデオ撮影で、利用者を指導するワンポイントレッスンをを行う。

オ 利用者自らが水中歩行や泳ぎの距離を記録し、群馬県1周を目指す「群馬めぐり」を行う。

2 利用者に「からだに健康！ここに元気！」をキーワードに開催

(1) からだに健康塾の開催

障害者や高齢者が気軽にスポーツに取り組むきっかけ作りとなり、生涯スポーツの振興と利用者相互の交流を図ることを目的に開催する。

ア 季節に合わせた運動メニューを紹介した動画を作成し、利用者にDVDで配布する。

イ 優良企業協賛による「PPP（パブリック・プライベート・パートナーシップ）事業」として障害児者を対象とした「群馬ヤクルト水中運動会」や身体障害者と高齢者等の交流を目

的とした「群馬ヤクルト杯ゆうあいグラウンドゴルフ大会」をそれぞれ年間1回開催する。
ウ 体力、体内年齢を測定し健康管理を行う、「生き生き健康測定」を県民健康科学大学との共同で年間6回開催し、健康教室参加者のデータ測定と併せてプール利用の効果を検証する。

エ 芝生広場を使用して「ゆうあいグラウンドゴルフ大会」を年間1回開催する。

(2) こころに元気塾の開催

障害者や高齢者のメンタルケアの一環として、多くの仲間を増やし孤立化防止やストレス解消を図り、心のゆとりを生む時間を提供することを目的に開催する。

ア 障害者と健常者の交流を目的として、来場者全員が楽しめる「ゆうあいフェスティバル」を様々な企業や団体等の協賛を得て年間1回開催する。

イ 日本の伝統的な季節のイベント（こどもの日・七夕・県民の日・冬至・新年餅つき・ひな祭り）を行う。

ウ 職員やボランティアが講師となり、自らの特技や趣味で指導する「文化教室」を年間2回開催する。

エ ハイキングを楽しみ、満開の桜の下で昼食をとる「健康ハイキング」を年間1回開催する。

3 中長期計画の周知と取り組み促進

中長期計画をひとりひとりの職員に理解・浸透させるため、周知を徹底するとともに、中長期計画の各取り組みについて積極的に推進する。

4 地域に密着したサービスの実施

(1) 地域における公益的な活動

ア 「渋川市高齢者等あんしん見守りネットワーク」に参加し見守り活動を行う。

イ プールの無い保育園や小・中学校にプール授業の場を提供する。

ウ 児童を対象に障害者や高齢者に対する思いやりの心を育成する子供福祉体験を行う。

エ 障害を理解し、共生社会を目指すために障害者週間記念イベントを開催する。

オ 環境美化を目的に、近隣の道路を清掃するクリーン作戦を行う。

(2) 利用者サービス

ア 整形外科相談・内科相談・リハビリ相談を毎月各1回行い、利用者の身体機能や健康の回復をサポートする。

イ 看護師による健康相談を行い、利用者一人一人に合った水中運動を指導する。

ウ 渋川市内の駅や団地を中心に交通手段のない障害者や高齢者のため、平成30年度に増設した送迎バスについて、今後もより利便性の高い路線を検討する。

エ 近隣の障害者・高齢者グループホームの要望や公民館活動等との連携によりデマンド送迎を実施する。

5 環境保全に対する取組と人にやさしい福祉のまちづくり

(1) 3R運動の実施

ア リデュース（抑制）として、灯油年間使用量の削減と、電力の省エネに努める。

イ リユース（再利用）として、ゆうあい図書館にて古本の貸出しを行う。

ウ リサイクル（再生利用）として、古新聞、プルタブ、ボトルキャップの回収を行う。

(2) 環境美化活動の実施（利用者・ボランティア・職員が三位一体となって実施）

ア プール北斜面、ロータリー広場に花卉を植える花いっぱい運動を行う。

イ ラウンジ外側にグリーンカーテンを造るグリーン化計画を実施する。

(3) 人にやさしい福祉のまちづくり

ア EAP（エマージェンシー・アクション・プラン）として、職員が定期的に館内外を巡回し危険箇所の除去・改良を行う。

イ 障害者・高齢者に「見易く、分かり易く、使い易い」を基本に、掲示物を見直すなどユニ

- バーサルデザインを積極的に採用していく。
- (4) 利用者の意見を聴いて更に利用者満足度アップを図る。
- ア 利用者の苦情や要望に迅速に対応するため、年間2回利用者満足度調査を実施する。
 - イ 「ゆうあいポスト」、「ありがとうボックス」を併せて設置し、意見や要望をより把握できるようにする。
 - ウ 群馬県社会福祉事業団情報保護規程に基づき、個人情報を保護する。
 - エ 群馬県社会福祉事業団情報公開規程に基づき、必要な情報を開示する。
- (5) 当館の利用者が設立したクラブを応援する。
- ア 歌声コーラス、手話コーラス、リズムダンスクラブの活動を積極的に応援する。

6 研修の充実

(1) ボランティア・職員研修

障害者・高齢者が安心して施設の利用ができるよう、日頃から障害者の介助や当館の教室・イベントをサポートしていただいているボランティアへの研修を行うとともに、職員の専門知識の向上に努める。

ア ボランティア研修

(ア) 登録ボランティアに対して、必要な知識や技術及び救助訓練等の研修を年間4回行う。

(イ) 新規ボランティアの心得を習得するためのボランティア講習会を年間1回行う。

イ 職員研修

(ア) 知識向上・泳力向上・防災訓練・法令遵守の4区分として研修を行い、障がい者スポーツ指導員として必要な専門知識向上を目指す職員研修を年間4回行う。

(イ) 利用者の安全を確保するため、公開訓練を含む水難訓練を年12回行う。

7 新型コロナウイルス感染拡大防止のための対応

事業については、定期的な館内消毒、プール内の利用制限、更衣室の人数制限とロッカーの使用禁止、館内の常時換気、利用時間の制限などに加えて、令和2年12月に導入した非接触型利用カードシステムを活用して万全な感染拡大防止対策を行った上で実施する。

8 令和4年度 利用者数目標（成果目標は障害者利用者数12,000人）

第5期指定管理期間の成果目標は障害者数12,000人であるが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で利用者総数が大きく減少しているため、令和2年度、令和3年度の利用実績を基に、教室等の再開を見込んで利用者総数及び障害者利用者数を設定した。

	利用者総数	障害者利用者数(内数)
令和4年度目標	28,200人	12,700人